

ホームラン ニュース

発行：船橋市野球協会少年学童部
 責任者：理事長 山田宣昭
 編集：広報部
www.funabashi-gakudou-baseball.jp/
https://twitter.com/kouhou_funagaku

2020 秋の大会

選手達がどんな思いで大会に臨んだのか？大会に参加して何を思ったのか？

今号では、低学年大会・新人戦に参加したチームの中から、抽選会で当選したチームの代表選手と船橋選抜の男女キャプテンにコメントを貰いました。コメントを読んで思った事は、各大会に於いて、選手それぞれに様々な「気付き」があったこと、「いい経験」を得られた。そんな場であったものだと感じました。コロナ禍が続く中、今後の大会も予定通り開催できるか不明ですが、どんな状況でも「出来る事はきっとある」。今後も選手達の「気付き」「いい経験」を得られる貴重な場として、学童部一同、工夫を重ねながら「全試合開催」を目標に努力してまいります。

低学年大会

例年であれば、4年生以下の選手達にとって、初めての大きな大会に繋がる「低学年大会」。昨年度までは初夏に開催され7月には決勝戦を行っていましたが、2度目の非常事態宣言を受け、残念ながら今大会は準決勝と決勝戦を残し、打ち切りとなりました。

コロナ禍で様々な活動が制限され続ける中、令和2年10月25日より始まった「2020学童部 低学年大会」。初めての公式戦に挑む選手達の表情は、緊張つつまねながらも、仲間と一緒に野球が出来る喜びを感じる明るいものでした。

新人大会 賞品授与式

低学年大会と新人戦には、株式会社フィールドフォース様に協賛いただき上位4チームに賞品を提供いただきました。賞品授与式の模様もお伝えします。



法典コンドル 山方 知樹

この大会は、僕たちのチームにとって初めての公式戦でした。試合前は、皆緊張しているようでしたが、始まる
と目の前のプレーに集中していました。

僕は先発ピッチャーでした。しっかり投げられるか心配でしたが、思いきり投げることができました。

打撃は、3 打席めにアウトローの球を逆らわずに左中間に打ち、エンタイトルツーベースヒットになりました。
芯でとらえることができ、気持ちよかったです。その後盗塁して、次の打者が内野ゴロを打ち、僕はホームイン
しました。ベンチに戻ってその選手と喜びました。守備は、4 回からショートを守りました。いつも一歩めを速く
できるように気をつけています。たくさん打球が飛んできて全部アウトにできました。

チームとしては、この試合で初めてランナーをはさんでアウトにしました。練習してきたプレーだったのでうれ
しかったです。試合は負けましたが、いい経験になりました。これからも、チームの皆で練習を重ねてがんばって
いきたいと思います。

金杉台ジュニアシーダース 百崎 結冬

ほとくのチーム、金杉台 Jr. シーダースは全体的に人数が少なく C チームは 4 年生 5 人、
3 年生 1 人、2 年生が 3 人、1 年生が 1 人のチームです。そのうちの 3 人はまだ入ったばかりで
今回が初めての大会でした。大会当日、今までの練習試合にはない人の多さや、大会の雰囲気
に圧倒され僕もみんなもガチガチに緊張していました。僕はピッチャーとして出場しましたが、
普段の練習や試合でできていたことができなかつたり、声を出すことができなかつたりで
試合には負けてしまいました。

この大会はコロナ禍でなかなか練習時間がとれなかった中でも、みんなそれぞれ一生懸命練習
してきたので、試合に負けたことはとても悔しかったけど、誰か 1 人でも欠けていたら大会に出場
はできなかったの、チームみんな大会に参加することができてよかったです。

僕は今まで自分のことしか考えていなかったけど、今回の大会が初めての大会で一生懸命
頑張ってくれた新しい仲間、いつも自分がマウンドに立っている時声を出して盛り上げ引
張ってくれる仲間の存在の大きさを知りました。これから僕はチームの仲間やいつも
一生懸命指導してくれる監督やコーチに感謝の気持ちを忘れずに、チームを盛り上げ引
張っていけるような選手になれるように頑張りたいと思います。

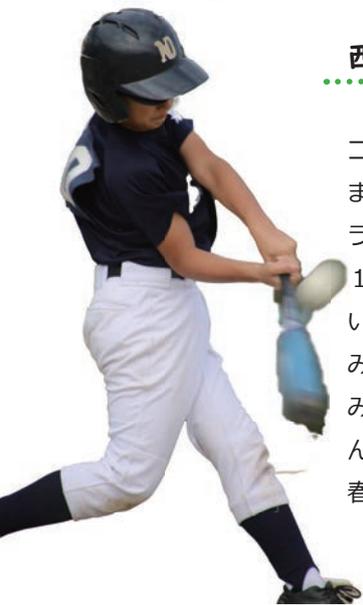
小栗原ベアーズ 戸畑 和人

低学年大会でうれしかったことは、今までの大会は全部一回戦で負けていたので、二回も勝
ててとてもうれしかったです。あともう一つはランニングホームランを二回も打ててうれし
かったです。勝った日の帰りの車でチームメイトと低学年大会の話をしてとても楽し
かったです。守備面では、ぼくはずっとキャッチャーのときに九割ぐらいピッチャー
の球キャッチしたり、止めたりすることができました。練習試合試合では五割くらいしか
捕れなかったけど、低学年大会ではちゃんと捕れたのでうれしかったです。くやし
かったことは三回戦の西海ドラゴンズに負けたことがとてもくやしかったです。西海
ドラゴンズのピッチャーの球が速くて打てなかったことがくやしかったです。二つ目
はキャッチャー守備をしているとき、バッターがバットを振って、ぼくはバットに
当たったと決めつけて本当はバットにあたっていなかったのでランナーを進めてしま
ったことです。三つ目はキャッチャーであまり指示が出せなかったこと、勝っている
ときはちゃんと指示が出せるけど、負けているときはだんだん指示が出せなくな
ってしまったことです。来年の公式戦は何試合あるかわからないけど、次の公式戦は
絶対に三回戦まで勝ちたい。そして、西海ドラゴンズと戦うことがあったら次は
絶対に勝ちたいです。

高郷スターズ 横松 賢太郎

高瀬グラウンドに入った瞬間、不思議な緊張感がぼくらをおそった。その緊張を少し
でもおさえるために、チームメイトとずっと話しながらベンチに向かった。ウォー
ミングアップではいつもより体が冷えていた。ぼくは緊張のせいだと思った。だけ
ど、グラウンドを見回して、いつもと違う大会のふんいきにワクワクする気持ち
が少しずつ増えていった。ぼくはその気持ちのまま試合にのぞんだ。試合では、
初回からみんな声を出して、その後も声を出して、みんなの心がひとつになっ
ているように見えた。自分たちの守りの回、ピンチの時に監督がタイムを取り、
「きみたちの目はまだ戦う目だ。」と言ってきて、ぼくは必死に声を出した。そ
うしたら、みんなが続いて声を出してくれて、ぼくはうれしくてつい笑顔にな
った。低学年大会を終えて、チーム一丸となって試合にのぞめて、いい経験
になったと思った。次は勝ちたいと思った。





西海ドラゴンズ 三浦 大我

今年はこの大会にぜんぶの力をだしたいとおもって毎日がんばってきました。コロナウイルスでれんしゅうもしっかりとできないときも多くて、勝てるかな? と思いながらも大会がはじまりました。今回はピッチャーでしあいにるので、すぐきんちょうしたけど、さいしょのボールがストライクになってドキドキすることもなくなりました。

1回戦はなんとか勝てて、次はやくえんだいリトルスターで、今まで1回も勝てなかったので何とか勝ちたいと思ってました。先に点がとれて、おいつかれたけど、また、リードできてそのまま勝てました。みんなたくさんヒットを打てて、しゅびでもエラーも少なくていいしあいだったと思います。みんなでゆうしょうめざしてやってきたけど、コロナウイルスでとちゅうで大会がなくなってものすごくざんねんです。

春の大会はぜったいにゆうしょうできるようにみんなで力をあわせてがんばろうと思います。

薬円台リトルスター 中里 陽向

全国制覇を目標にこの1年間やってきた僕達のチームは、2回戦で負けました。本当に悔しかったです。試合では1番バッターでヒットを打ったけど、もっといっぱいヒットを打ちたかったです。キャプテンとして頑張れたこと、それは声を出してチームを盛り上げた事です。

でも、みんなが盛り上がったわけじゃありません。声が出せる子もいたし、出せない子もいました。みんなを盛り上げるのは本当に難しいです。僕がイライラしてしまっってみんなに迷惑をかけた事もありました。チームは取れるアウトをしっかりととり、エラーも何個かあったけど試合に全力で取り組みました。エラーの中でも送球エラーが多かったので、キャッチボール、ノックをしっかりとやります。来年からは16メートルになったり、塁間が変わりますが、早く慣れるようにしたいです。もう負けたくありません。このリトルで全部勝ちたいです。しっかり練習し、勝つために頑張ります。



若潮スワローズ 市瀬 凌士

僕たちは薬円台リトルスターズと戦いました。

練習で心がけていたおたがいへの声かけも緊張してかけられなかったので、練習からもっと大きい声を出すようにしたいです。また、ピンチになってしまうと声が小さくなり、静まってしまうというのが僕たちの弱いところだと感じました。

また、盗塁をするためのリードやスタートが大事だと感じました。

僕の印象に残ったことは、三回の表に相手チームに外野をこえるヒットを打たれたことです。試合後の集合写真を撮っている時でさえ、笑えないほど悔しい思いをしていました。

この大会では悔しい結果となりましたが、これから一生懸命練習をして、次の試合では結果を出したいです。

習志野台ワンパックス 石井 大翔

低学年大会、ロッテ旗大会ともに優勝することが僕たちの目標でした。

しかし、コロナの影響で練習が出来なくなり、ロッテ旗大会がなくなりました。僕たち4年生は、自粛期間中の目標を決めて、毎週どんな練習をしたかを動画や写真で送り報告し合いながら自主練をがんばりました。6月に練習再開となりみんなで野球ができるようになった時は、とてもうれしかったです。低学年大会は絶対に優勝することを目標にみんなで練習を頑張りました。低学年大会も延期が続きましたが、ようやく11月に始まりました。僕はキャプテンとして、率先して声を出したり、荷物を運んだりしました。低学年大会は準決勝まで勝ち進みましたが、またコロナの影響で延期となり最後には中止となり大会が終わってしまい、とても悔しかったです。

しかし、気持ちを切り替えてBチームの春季大会優勝を目標に頑張りたいと思います。



新人大会



ノアレイアーズ 赤井 琥耶

塚田クラブとの新人戦では26-1と大差で負けてしまいました。

反省点は、フライを落としたり、ゴロをアウトに出来なかったり、フォアボールを出してしまったこと、バッティングでは見逃し三振をしてしまったことです。それを直すには自分からボールを取りにいたり、フライを取るときに落下地点に入ったり、ボールを怖がらないことが大切だと思います。良かったところは、キャッチャーが一生懸命ボールを止めたり声を出してくれたところです。来年大会で勝つためにチーム全員で一生懸命『野球』をやることを頑張りたいです。

西習志野グリーンファイター 中村 太紀

ぼくは、2年生から野球を始めました。今まで野球をやってきて、この新人戦を迎えましたが、チームは人数が少なくケガをした子もいたりして試合に出場できるかどうか分かりませんでした。でも試合になんとか出られて良かったです。

自分はピッチャーで試合ではストライクが入らなくて大量に点をとられてしまいました。キャプテンの意地もあり、絶対に取り返すという強い気持ちで打席に立ちセンター前ヒット。仲間も続けてヒットを打ちなんとか1点取り返しましたが、大差で負けてしまいました。とても悔しかったです。チームのみんなとボールが取れなくても打てなくても最後まであきらめずに元気に試合に取り組むことを約束していたので、最後までみんなで全力で頑張りました。この悔しさをバネにもっとたくさん練習をして、自分が進んで声を出したりしてチームを引っ張って、もっと強いチームになりたいです。



ホワイトビーストロング 井出 秀悟

僕は、ホワイトビーストロングに入団してまだ1ヶ月程しか経っていない中での大会だったので、初めての試合に胸がドキドキしているのと同様にとてもワクワクしていました。僕はレフトを守っていて、ボールを取れるか不安だったけれど、試合をしているうちに楽しくなってきた、不安がなくなりました。

頑張った事は、自分に打順が回ってきた時に当たらなくてもいいから思いっきり振ってと代表に声をかけてもらったので、思い切り振る事を意識してやりました。試合の結果は負けてしまったけれど、これから沢山練習をして、次は負けないように頑張ろうと思います。はじめての試合でわからないことだらけだったけれど、試合に出られて良かったと思います。

塚田クラブ 大塚 優真

僕は野球が大好きです。一つのボールの行方で流れが変わる楽しさがあるからです。小一から塚田クラブに入部し、土日はグラウンドで仲間と一緒に練習の日々。監督やコーチからのアドバイスを受け、仲間と声を掛け合いながら動きを確認。しかし、練習の時は出来ている事も試合になるとうまくいかず、悔しい思いをした時もありました。

今回の新人大会はコロナの影響で試合日の変更が続き、また限られた活動時間の中での練習に戸惑いや焦りがありましたが、僕はキャプテンとして何が出来るのかを考えました。そして、大きな声を出しチームをまとめ、一つ一つ落ち着いてプレーする事を心がけました。一回戦、二回戦と勝ち進み、準々決勝ではみんなの気持ちが一つになり勝利へと繋がりました。とても嬉しかったです。

この気持ちを忘れずに、これからも練習を積み重ねレベルアップしていきたいです。





宮本ビーバース 小澤 凜世

まず始めに負けた理由は、大きく分けて3つあると思います。

一つ目は、だんたんと言がなくなって、ムードが悪くなり、負けに繋がったと思います。それを直すため、普段から声を出して、試合で声を出すことが大事だと思います。

二つ目はチャンスで打ててないということです。チャンスは作れてもチャンスで打てず、チェンジということが多かったと思います。それを直すためには普段の練習からもっと緊張感をもって練習することが大事だと思います。

三つ目はエラーの多さです。取れるアウトが取れなくて、流れが悪くなってしまいました。これを直すために、普段から緊張感を持ち、意味のある練習をしていかなければいけないと、勝てる試合に勝てなくなってしまいます。逆にこのようなことをやることで、負ける試合よりも勝てる試合が多くなってくると思います。

海神スパローズ 厚見 太智

僕は新人大会に向けて監督やコーチ、チームのみんなと沢山練習をして勝つために努力をしてきました。今年は練習時間も少なかったので自主練習も毎日のようにしました。

1回戦の対戦相手は藤上ディアーズでした。とても緊張しました。先に点を取られてしまいました。チームのみんながいいプレイをしてくれて同点に追いつく事ができました。僕達にチャンスが回ってきました。勢いがつき声も出てきました。でもすぐに点を取られてしまいました。その後は追いつく事が出来ず負けてしまいました。とても悔しかったです。次は絶対に勝ちたいです。

来年は最後の年です。後悔のないように今まで以上に何事にも全力で取り組み、そして楽しみたいと思います。この試合で足りなかった事をよく考えて練習に取り組んでいきたいです。みんなで協力をして今より強いチームにしたいです。チームのキャプテンとしてピンチの時ほどもっと大きな声を出してみんなを引っ張っていけるようにしたいです。

いつも応援してくれている監督、コーチ、お父さん、お母さん、感謝しています。



藤上ディアーズ 大内 稜也

僕たちは新人戦の一回戦から準々決勝までを戦いました。新型コロナウイルスの影響で準決勝・決勝戦までできませんでした。また、準々決勝まで7か月もかかってしまいとても長かったです。その間、メンバーが集まった練習が思うようにできませんでした。こうして試合が出来た事はとてもうれしかったです。

準決勝・決勝戦はなくなりましたが準々決勝戦のベスト4をかけた試合は3対3の接戦でサドンデス戦となりました。サドンデス戦の1回までは両チームとも1点ずつ取り、緊迫したまま決着がつかせませんでした。僕たちは先行で再び5対4でリードしたのですが、その裏の相手チームの攻撃で右中間をやぶる

大きな一打で逆転サヨナラ負けとなってしまいました。僕たちの持ち味である先制点を取って打ち勝つ野球ではなく、追いつかれて接戦となってしまい、最後に逆転サヨナラ負けになってしまった事はとても悔しかったです。

試合後、敗因を冷静に考えました。それは接戦になればなるほど勝ちたい・絶対に勝つという気持ちがどれだけ強いかだと思いました。最後まであきらめない気持ちが相手チームの方が強かったと思います。

この悔しさをバネに、より強いあきらめない気持ちを持って、チーム一丸となり6年生の春季大会での優勝を目指します。



男子選抜



キャプテン
FTJ 諸岡 杜和

最初の顔合わせで突然野田監督から主将に選ばれた。正直何で俺なんだよって思った。

初練習は不安と緊張でみんなとも全然話せなかった。練習試合の日はもっと不安だったけどみんなが話しかけてくれて少しずつ不安がなくなった。

選抜は名前を知っている有名な選手ばかりで僕はピッチャーを勝ち取れなかったけど練習から全員が試合の時の様な集中力でポジションを争う感じがすごく楽しかった。僕は守備が下手で自信がなかったけど争うことで少し上達できた気がする。

今年はコロナで集まる時間は少なかったけど野田監督がお前のチームだと思ってるみんなを引っ張れと言ってくれた時に自分の何かが変わったのを感じた。

目指した目標には届かなかったけど、みんながいつも声をかけてくれたおかげで僕なりに主将を頑張れたし、沢山学んだ選抜だった。

野田監督やコーチの皆さん、学童部の皆さん、チームメイトのみんな、本当にありがとうございました。



女子選抜



キャプテン
若松ヤンガーズ 樋口 葉南

私は、4年生の頃から船橋女子選抜に参加して、今年の大会では初めてキャプテンとして出場しました。

今回の大会ではコロナウイルスの影響で、なかなかチームで集まったり練習とかも一緒にできずにいた中でもチームの皆が頑張ってる試合をしてくれたおかげで準優勝という良い成績をおさめることができて良かったです。

来年の船橋女子選抜には、今年の経験を生かして、優勝を目指してたくさん活躍し頑張りたいです。

また、監督やコーチ、お父さん、お母さん、いつもサポートしてくれてありがとうございます。

